

令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第11号(2月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年1月28日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	少ない	多い

○2月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		1月の発生量 (平年比)	1月からの 増減	2月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① カンシャワタアブラムシ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
(温州みかん)	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② そうか病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
(タカシロ)	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
キャベツ	① 菌核病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
かぼちゃ	① うどんこ病	多	↗	多	平年の発生量の推移(→)
	② アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
(施設野菜)	① モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス)	並	↗	やや多	媒介虫(アザミウマ類)の発生量が平年より多い
	② うどんこ病	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	③ 斑点病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
	④ ミナミキイロアザミウマ	多	↗	多	つる先当たり成虫数が平年より多いため 今後1か月の気温が平年より高い見込み
ピーマン	① タバココナジラミ	多	↘	多	平年の発生量の推移(↘) 今後1か月の気温が平年より高い見込み

○2月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		1月の発生量 (平年比)	1月からの 増減	2月の発生量 (平年比)	
ト マ ト	① 黄化葉巻病	多	→	多	平年の発生量の推移 (→)
	② コナジラミ類	多	→	多	平年の発生量の推移 (→) 今後1か月の気温が平年より高い見込み
さ や い ん げ ん (平張)	① ミナミキイロアザミウマ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移 (↗) 今後1か月の気温が平年より高い見込み
	② カスミカメ類	多	↗	多	平年の発生量の推移 (↗)
小 ギ ク (年未出荷用)	① 黒斑・褐斑病	多	→	多	平年の発生量の推移 (→)
	② カスミカメ類	多	↗	多	平年の発生量の推移 (↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	メイチュウ類	メイチュウ類により引き起こされる芯枯茎の発生は、沖縄本島での発生調査は平年と比べて「やや少」であった（芯枯れ発生ほ場率：83.3%、平年値：97.1%）。しかし、フェロモントラップによる調査では、カンシャシクイハマキの誘殺数が平年と比べて「やや多」、イネヨトウは「多」であるため、引き続き、芯枯茎の発生には注意が必要である。対策は、芯枯茎を地際部より深く切り取り幼虫を捕殺する。収穫後の残茎はほ場外に出し処分する。植付時もしくは収穫後の培土時に農薬散布を行う。
	ツマジロクサヨトウ	1月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
（タカ ん カ き ん つ）	サビダニ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が多発生であった。薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
マン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
キ レ タ ハ ス	シロガシラ	一部ほ場で発生。葉を加害し、商品価値を著しく低下させるため、防鳥ネットなど付帯して被害の防止を図る。
（ゴ ー 設 ヤ ー）	ウイルス病	1月の調査でスイカ灰白色斑紋病（WSMoV）及びズッキーニ黄斑モザイク病（ZYMV）の罹病株が観察された。WSMoVはミナミキイロアザミウマ、ZYMVはアブラムシ類がウイルスを媒介する。1月のミナミキイロアザミウマの発生量は多発生であり、アブラムシ類有翅虫もハウス内で確認されているため、早期発見と防除を徹底する。また、汁液感染を防止するために、罹病株は見つけしだい抜き取り、農機具の消毒も徹底する。

令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第11号(2月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年1月28日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	少ない	多い

○2月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		1月の発生量 (平年比)	1月からの 増減	2月の発生量 (平年比)	
か ぼ ち ゃ	① うどんこ病	やや少	↓	やや少	平年の発生量の推移(↓)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
へ ご し や ー	① うどんこ病	(発生なし)並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて、2～3月の薬剤防除を徹底する。
	メイチュウ類	メイチュウ類により引き起こされる芯枯茎の発生は、宮古島・伊良部島での発生調査は平年と比べて「やや少」であった(芯枯れ発生ほ場率:75.0%、平年値:94.8%)。多良間島の防除員報告では、芯枯茎発生は中程度。しかし、フェロモントラップによる調査では、カンシャシンクイハマキの誘殺数が平年と比べて「多発生」であるため、引き続き、芯枯茎の発生には注意が必要である。対策は、芯枯茎を地際部より深く切り取り幼虫を捕殺する。収穫後の残茎はほ場外に出し処分する。植付時もしくは収穫後の培土時に農薬散布を行う。
	ツマジロクサヨトウ	1月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	チャノキイロアザミウマ	一部ほ場の新葉で発生が確認されている。対策は、不要な新梢やコミカンソウ類など雑草の施設外への除去を行う。
ゴ と う や が ー ん	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。

令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第11号(2月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年1月28日発表:沖縄气象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	少ない	多い

○2月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		1月の発生量 (平年比)	1月からの 増減	2月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(→)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(→)
マンゴー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
かぼちゃ	① モザイク病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② うどんこ病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	③ 細菌病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
	④ アブラムシ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	⑤ ハモグリバエ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
へちま	① 斑点病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値: 過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値: 過去3~4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(八重山群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて、2~3月の薬剤防除を徹底する。
	ツマジロクサヨトウ	1月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。